

“Future”サービス

勝つ特許解析オンラインサービス



by アナリスリサーチ株式会社

“Future”サービスの説明書

V1.3 (更新日;2023.10.10)

目次

【サービス概要】.....	2
【こんな方にオススメ】.....	2
【利用(例)】.....	2
【本サービスの仕組み】.....	3
1. 繰り返しのミーティング.....	3
2. 10日で結果を出す Quick 解析.....	3
3. 7種類のメニューから選ぶ.....	3
【提供する情報】.....	4
基本的な提供情報.....	4
その他提供可能な情報(無料).....	4
〈サポート詳細〉.....	4
【料金】.....	5
【補足】.....	6
1. 特許解析の失敗をしない仕組み.....	6
2. 提供する資料の取り扱い.....	7
3. お客様がアウトプットで選べ Quick 解析 7 種類.....	7
4. ミーティングスケジュールの基本形.....	8
① 1.「企業 Quick 解析」サンプル.....	9
② 2.「ニーズ Quick 解析」サンプル.....	10
③ 3.「実現手段 Quick 解析」サンプル.....	11
④ 4.「コア Quick 解析」サンプル.....	12
⑤ 5.「組織力 Quick 解析」サンプル.....	13
⑥ 6.「ベンチマーク」Quick 解析サンプル.....	14
⑦ 7.「レポート Quick 解析」の概要.....	15
最後に.....	16

【サービス概要】

Future サービスは、CASE のビジネス・技術の動向を特許情報から把握して報告する支援サービスです。

複数回のオンラインミーティングを実施する中で、毎回調べたいことをお聞きして、次回ミーティングで調べた結果をご報告する活動を行います。繰り返すミーティングの途中で「ここも調べたい」「ここは深掘りしたい」などのお客様のわがままに応じて柔軟に調べる仕組みで行いますので、調べたいことを、とにかくスッキリ知っていただくことを目指しています。しかも、整理された資料と解説付きでの報告を受けられるので、自ら特許を読むなどの手間暇をかけることなく、調べたいことを知ることができる、とても便利なサービスになっています。

【こんな方にオススメ】

例えば、物流管理のクラウドサービスなどの新規事業の検討や EV 熱管理システム技術などの技術開発テーマの検討、それに、「中長期計画に沿った展開業務」など、CASE の様々な作戦を立てる際に最適なサービスです。

ご利用する方の部署名は、自動車メーカーや自動車部品メーカーなどの「新規事業」「技術企画」「研究企画」「調査企画」「研究」などの部署の方です。

【利用(例)】

1. 動向を把握したい

- ・ 新ビジネスが誕生する動向を調べる 例。物流輸送管理などのソリューションサービス開発
- ・ 新技術が誕生する動向を調べる 例。ソニーの「音の ADAS」などの機能開発

2. ライバルに対抗したい

自社で開発する技術と競合する企業を調べ、対抗策を検討するための情報収集に利用する

- ・ 同じ技術を開発している企業の存在を把握する
- ・ 各社の技術が解決する顧客ニーズを把握する
- ・ 実現手段を把握して、ノウハウを学ぶ
- ・ コア特許を把握して回避の検討をする
- ・ 差別化などコア技術を把握して、対抗できるアイデアを創出する

3. 取引先のニーズを調べたい

- ・ ライバル企業(自動車部品メーカーの同業者)がどのような開発をしているのかを調べる
- ・ B2B の顧客(車両メーカー)の開発内容を調べて、自社開発すべき技術を企画する

【本サービスの仕組み】

1. 「サービス途中でリクエストができる」なので、調べたいことをスッキリと知れる
2. 「整理された資料での報告」なので、お客様自らの手間がかからない
3. 「10日後の結果報告」なので、調べたいことごとをすぐ知れる



1. 繰り返しのミーティング

ミーティング＝「結果報告の場」＋「リクエストできる場」。10日間隔で繰り返し行うミーティングごとにリクエストできます。

2. 10日で結果を出す Quick 解析

お客様の関心ごとを10日間で調べます。調べた結果に対して「ここをもっと調べたい」を言っていただく間隔を10日にすることができます。

3. 7種類のメニューから選ぶ

Quick 解析メニューは、7種類をご用意しました。この7種類によって、浅く広く調べたいケースと一極集中に深掘りしたいケースのどちらにも適応できます。

【提供する情報】

基本的な提供情報

本サービスで提供する情報は、ミーティングでの説明と各説明資料です。なお、提供する資料は、原則、お客様企業の社員が閲覧できるように弊社著作権の許諾をします。予めご了承ください。

(詳細は、補足資料をご覧ください)

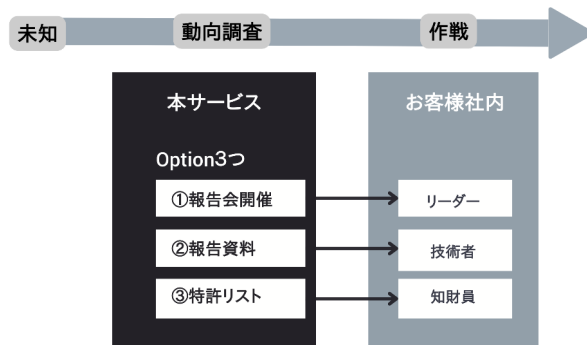
その他提供可能な情報(無料)

お申し込み時にご要望をいただいた方にだけ、無料で提供している情報が3つあります。

【社内共有の3つ】

1. 「報告会開催」 ; 上司報告やメンバー展開を省略できる
2. 「報告資料」 ; じっくりと、メンバーで共有する
3. 「特許リスト」 ; 担当知財員と共有して、様々な知財検討に移行する

作戦のための情報収集



〈サポート詳細〉

調査 ; 世界 170 各国の特許データベースを調べます。

オンラインツール ; 通常は ZOOM ※ お客様ツールでも対応可能

ミーティング ; 原則、1 時間。

最終報告会 ; 90分 内訳; 報告60分+質疑30分

資料提供 ; 各ミーティングで説明した資料(ラフな資料です)は、打ち合わせ後にメール送付。

ミーティング記録 ; 議事メモの共有(当日のご意見や次回までの実施事項を記載)

【料金】

本サービスは、業務委託契約や依頼書・仕様書がなくても、調査を開始できる工夫をしたサービスにしています。ここでは、業務委託契約でない場合の料金について、説明をします。ただし、業務委託契約をご要望のお客様もいます。その場合、カスタマイズ内容に応じて料金を調整させていただいています。予めご承知おきください。

料金	;	ミーティング回数	×	ミーティング基本料金
ミーティング基本料金	;	¥150,000 円(税込)	/	回
お申込ミーティング回数	;	1 回	～	(自由に選択可能)
途中キャンセル	;	可		

〈推奨のミーティング回数〉 (目安回数) ※ 適切な回数の見積りは、ヒアリングをして見積ります。

- ① 特定分野のビジネス調査 18回
- ② 特定技術の深掘り調査 9回
- ③ 定常監視 毎月1回

ミーティングの回数や頻度を調整して、色々なバリエーションに対応できます。

【お申込手続き】 依頼書・仕様書が不要です。

以下手順で簡単にお申込いただけます。気軽にお問合せください。

- ①相談→②見積もり→③お申込→④サービス開始

すぐに調査を開始できます。

尚、本サービスをカスタマイズした業務請負契約でのサービス提供は可能です。詳細は、お問い合わせください。

【補足】

1. 特許解析の失敗をしない仕組み

10日間隔のミーティングの仕組みが、特許解析のジレンマを解消します。

〈特許解析のジレンマとは〉

そもそも特許解析は、専門性の違いから、「調べたい人」「調べる人」の連携で行うケースが多い作業ですが、それが原因でジレンマに陥ってしまい、失敗するケースが多々ある作業です。

- ・ 調べたい人は、事前に調査結果を想像できないために、調査依頼を具体化できません。
- ・ 調べる人は、曖昧なまま調べて、多くの調査工数をかけてしまいます。

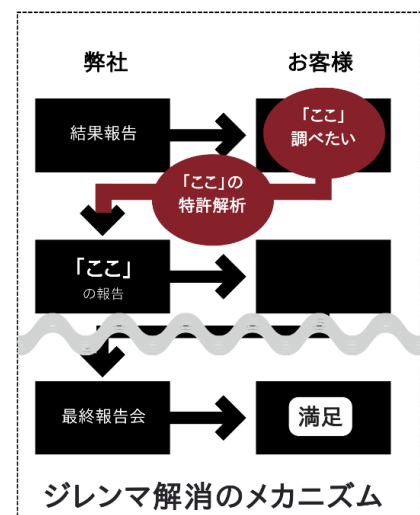
どちらが悪いということではなく、ジレンマのメカニズムを解消する工夫が必要です。

【ジレンマ】



〈ジレンマ解消のメカニズム〉

本サービスの10日間隔のミーティングの仕組みが、このジレンマを解消します。



2. 提供する資料の取り扱い

資料は弊社著作物です。権利譲渡をする提供ではございません。

閲覧できる範囲は、原則、お客様企業の社員全員の閲覧を許諾いたします。なお、関係会社の社員が閲覧したい場合には、事前にお申し付けください。

丸ごと転載のお申込者資料は、社内閲覧可

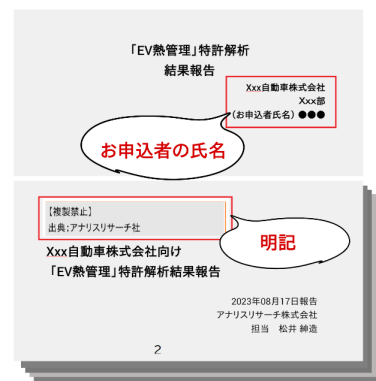
お申込者に限り、複製を許諾します。例えば、以下に示すお申込者の資料に転載して、社内でご利用ください。

転載(例)

Step1;お申込者の氏名を記載した表紙を作成

Step2;弊社資料の丸ごと転載
(お客様資料のページ2~)

Step3;「複製禁止」、「出典」の明記



3. お客様がアウトプットで選べ Quick 解析 7 種類

No	呼称	アウトプット
1	企業 Quick 解析	<u>対象技術</u> を開発する企業を特定した結果をご報告
2	ニーズ Quick 解析	<u>対象企業</u> が開発する技術等のニーズを把握して報告
3	実現手段 Quick 解析	<u>対象企業の実現手段</u> を把握して報告
4	コア Quick 解析	<u>対象企業が開発するコア技術</u> を把握して報告
5	組織力 Quick 解析	<u>対象企業の対象技術の組織力</u> を発明者リソース数で報告
6	ベンチマーク Quick 解析	各社の技術の差を比較して整理して報告
7	レポート Quick 解析	<u>これまで調べた結果</u> をまとめた資料を作成し報告

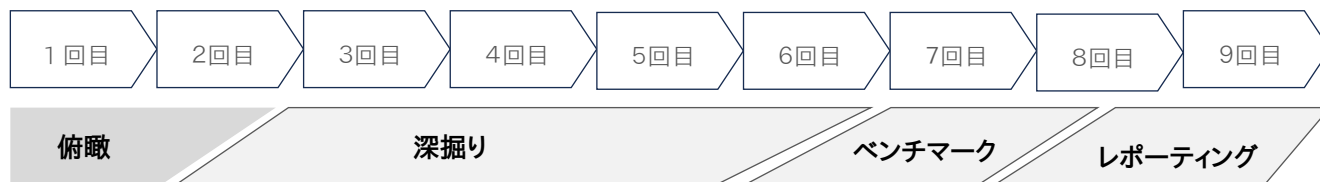
※ アンダーラインが各 Quick 解析の INPUT 情報

尚、お客様は、この Quick 解析の内容を必ずしも理解しておく必要はございません。ミーティングの際に適宜ご説明しますので、ご安心ください。

4. ミーティングスケジュールの基本形

ミーティングを複数回繰り返す際の全体の流れは、「俯瞰」→「深掘り」→「比較」→「まとめ」の順が基本です。
結果、お客様の調べたいことを知れるという、お客様満足を実現します。

〈ミーティング9回の例〉



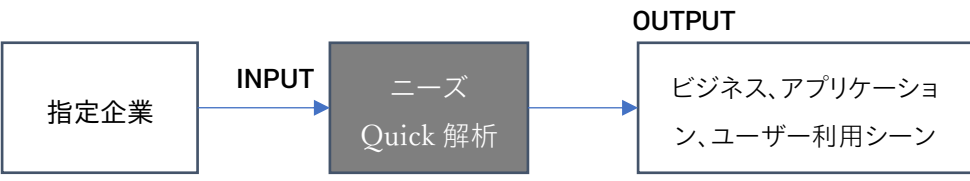
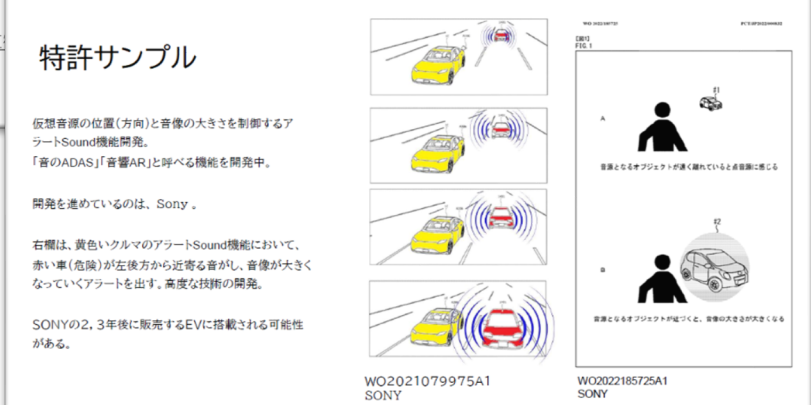
【詳細】

Step	「Quick解析」の選択	見える化する全体像
1. 俯瞰	1. 企業Quick解析	
	お客様の選択	
2. 深掘り	2. ニーズQuick解析	
	3. 実現手段Quick解析	
	4. コアQuick解析	
	5. 組織力Quick解析	
	6. ベンチマークQuick解析	
3. 比較	6. ベンチマークQuick解析	
4. まとめ	7. レポートQuick解析	

① 1.「企業 Quick 解析」サンプル

<p>タスク</p>	<p>指定技術を開発する 企業を特定した結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	<pre> graph LR A[指定技術] -- INPUT --> B[企業 Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[開発企業] </pre>
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 開発企業のリスト 特許出願を最近実施している企業を抽出している企業の中で、特に、出願数や発明者数等が組織的な規模にある企業を特定し報告。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 候補企業についての特許サンプルを提示し、技術内容を具体的に理解いただきます。 <p>〈例〉 EV 熱管理の開発企業をご報告する際の資料の一部抜粋</p> <div data-bbox="245 1220 1417 1921"> <p>「EV熱管理」開発企業リスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 韓国 現代自動車 (with KIA) 中国 BYD 中国 GEELY フランス VALEO 中国 第一汽車 米国 FORD 中国 長城汽車 韓国 HANON S 中国 CATL 中国 長安汽車 他多数 <p>韓国現代自動車 開発する「EV熱管理」の特許サンプル</p> <p>【サンプル特許】 ここでは、韓国現代自動車がEV熱管理技術を開発している事実確認をする際に把握したサンプル特許を紹介します。</p> <p>【名称(翻訳)】 注入式熱交換モジュール及び該モジュールを応用する中両の熱管理システム</p> <p>【要約文(翻訳)】 注入式熱交換モジュール及び該モジュールを応用する中両の熱管理システムであって、該注入式熱交換モジュールは以下を含む:外部凝縮器又は室内凝縮器に接続される上室と、蒸発器及び圧縮機に接続される下室とを有する外タンクと;上記内タンクは、上記外部タンク内の冷媒と熱交換可能に設けられており、上記圧縮機、蒸発器又は外装置の下部に接続されている;第1バルブは、内タンクの上端に設けられている;第2バルブは、内タンクの下端に回転可能に連結されている;そして、第1弁と第2弁とが同時に回転するように、第1弁と第2弁とが接続されている。第1弁および第2弁は、回転することにより冷媒の流れを許容し、冷媒を膨張させたり、冷媒の流れを阻止したりするように構成されている。</p> <p>【目的】 特許情報: 2021.12.15 ● KR1020210179799 蒸気発生器 2022.11.18 ● CN20221140453.3 特許出願 出願番号 2023.08.18 ● CN116262422A 特許出願 出願番号 特許発行国: タイプ: 特許公開 申請</p> <p>〈サンプル特許の開発目的について〉 右欄で示すサンプルは、熱管理システムのコストダウンなどのために、モジュール化する技術を開発していることを示唆するものです。</p> <p>〈次のおススメ〉 ここで紹介したのは418件中の1件です。その他の手段を読みたいならば、「手段Quick解析」がおススメです。</p> </div>	




② 2. 「ニーズ Quick 解析」サンプル

<p>タスク</p>	<p><u>指定企業</u>が開発する ビジネス、アプリケーション、ユーザー利用シーンなどのニーズを把握した結果をご報告 ※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定企業のニーズ内容 当該企業が最近開発しているビジネス、アプリケーション、ユーザー利用シーンなどのニーズ情報をご報告します。特に、最近の特許出願の中で開発しているニーズを中心にご報告。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 候補となるニーズ内容に関わる特許サンプルを提示し、具体的な技術内容を理解いただきます。 <p>〈例〉 SONY の ADAS におけるニーズのご報告のケース</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>SONYが開発するADAS 「2. ニーズ把握」結果</p> <p>ADAS開発の SONYの主なニーズ3つ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運転者がEVの走行状態を認識しやすくするための疑似モータ音の発生の不快感の改善技術@WO2023127510A1 2. 歩行者に対して車両の接近を知らせる@WO2023068116A1 3. 走行上の障害物の存在を運転手に直に知らせる@WO2022145286A1 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>特許サンプル</p> <p>仮想音源の位置(方向)と音像の大きさを制御するアラートSound機能開発。 「音のADAS」「音響AR」と呼べる機能を開発中。</p> <p>開発を進めているのは、Sony 。</p> <p>右欄は、黄色いクルマのアラートSound機能において、赤い車(危険)が左後方から近寄る音がし、音像が大きくなっていくアラートを出す。高度な技術の開発。</p> <p>SONYの2, 3年後に販売するEVに搭載される可能性がある。</p>  <p>WO2021079975A1 SONY</p> <p>WO2022185725A1 SONY</p> </div>	

③ 3. 「実現手段 Quick 解析」サンプル

<p>タスク</p>	<p>指定企業が開発する 実現手段を把握した結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	<pre> graph LR A[指定企業] -- INPUT --> B[実現手段 Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[具体的な技術内容] </pre>
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定企業が開発する実現手段を把握した結果をご報告 主に、当該企業の最近の特許出願が出されている技術の実現手段について、例えば、ブロック図などを作成して説明するなど、具体的に理解いただけるようにして説明します。 特許リストのご提供（事前相談が必要） 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 候補となる実現手段についての特許サンプルを提示し、そこからさらに具体的に理解いただきます。 <p>〈例〉 SONY の「音の ADAS」技術の実現手段についてご報告例</p> <div data-bbox="260 1317 1182 1888"> <p>SONYの「音のADAS」ブロック図</p> <p>〈開発ノウハウ〉 1. 車外に仮想音源 2. スピーカーがヘッドレストに設置</p> </div> <p>WO2022145286A1 (出願日2021.01.04)</p>	

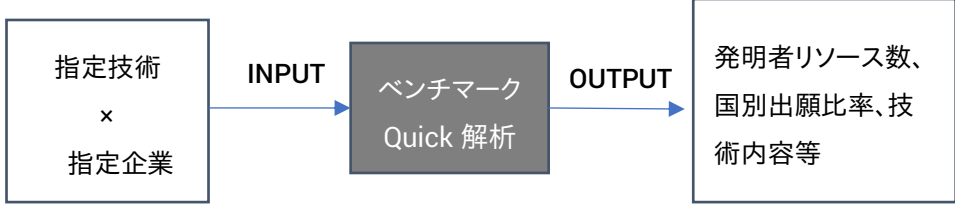
④ 4. 「コア Quick 解析」サンプル

<p>タスク</p>	<p>指定企業が開発する コア技術を把握した結果をご報告 ※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定企業が開発するコア技術の内容を把握した結果をご報告 主に、最近の特許出願が出されている技術の中から、「出願数が集中している技術」「商品差別化に関わる技術」「性能や価格に寄与するなどの特徴的な技術」についてご紹介します。 コア技術の特許母集団の中のコア特許(候補)のご提供(事前相談が必要) 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 ご紹介する技術が、当該企業のコア技術であることを弊社が判断した理由などを解説します。 特に、特許サンプルを提示し、より具体的に技術内容を理解していただきます。 	
<p>〈例〉 SONY の ADAS 技術について調べた結果、音の ADAS を発見しご報告したケース</p>	
<div style="border: 1px solid gray; padding: 10px;"> <p>特許サンプル</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>仮想音源の位置(方向)と音像の大きさを制御するアラートSound機能開発。 「音のADAS」「音響AR」と呼べる機能を開発中。</p> <p>開発を進めているのは、Sony。</p> <p>右欄は、黄色いクルマのアラートSound機能において、赤い車(危険)が左後方から近寄る音がし、音像が大きくなっていくアラートを出す。高度な技術の開発。</p> <p>SONYの2、3年後に販売するEVに搭載される可能性がある。</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p style="text-align: center;">WO2021079975A1 SONY</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p style="text-align: center;">WO2022185725A1 SONY</p> </div> </div> </div>	

⑤ 5.「組織力 Quick 解析」サンプル

<p>タスク</p>	<p>指定企業×指定技術の発明者リソース数など組織力の評価結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>																											
<p>概念図</p>	<pre> graph LR A["<u>指定技術 × 指定企業</u>"] -- INPUT --> B["組織力 Quick 解析"] B -- OUTPUT --> C["発明者リソース数"] </pre>																											
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 解析対象の発明者リソース数など組織力の評価結果をご報告 主に、最近 1 年(2021年)の特許出願母集団に関わる発明者リソース数や過去からの推移をグラフ化するなどして評価した結果をご報告します。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 組織力が高い場合などは、必要に応じて、技術を分解し直すなどして解説します。組織力がまだ低い場合でも、差別化性の高い技術などの場合は、具体的な特許サンプルを提示し、最近開発している具体的な技術内容を理解していただけるようにします。 <p>〈例〉 EV 熱管理技術に関する TESLA 社と BYD 社の発明者リソース数をグラフにして示した例。 リソースの違いを理解していただけるように説明をします。</p> <div data-bbox="240 1384 1428 2033"> <p>熱管理のTESLAとBYDの発明者数の比較</p> <table border="1"> <caption>熱管理技術の発明者数比較 (2015-2022)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>BYD</th> <th>TESLA</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2015</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>2016</td><td>15</td><td>0</td></tr> <tr><td>2017</td><td>15</td><td>0</td></tr> <tr><td>2018</td><td>75</td><td>0</td></tr> <tr><td>2019</td><td>95</td><td>0</td></tr> <tr><td>2020</td><td>90</td><td>0</td></tr> <tr><td>2021</td><td>130</td><td>0</td></tr> <tr><td>2022</td><td>138</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> </div>		年	BYD	TESLA	2015	0	0	2016	15	0	2017	15	0	2018	75	0	2019	95	0	2020	90	0	2021	130	0	2022	138	0
年	BYD	TESLA																										
2015	0	0																										
2016	15	0																										
2017	15	0																										
2018	75	0																										
2019	95	0																										
2020	90	0																										
2021	130	0																										
2022	138	0																										

⑥ 6. 「ベンチマーク」Quick 解析サンプル

<p>タスク</p>	<p><u>指定企業(複数)×指定技術(複数)</u>のマトリクス表を作成して、各社の差が比較できるようにした表を整理してご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>																																																																
<p>概念図</p>	 <pre> graph LR A[指定技術 × 指定企業] -- INPUT --> B[ベンチマーク Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[発明者リソース数、国別出願比率、技術内容等] </pre>																																																																
<p>OUTPUT</p>	<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 企業と技術を各指定対象のマトリクス表をご報告 主に、最近 3 年の特許出願母集団において、発明者リソース数や出願数を企業比較できるようにします。また、技術把握した内容をマトリクス表に付け加えるなど、ご要望に応える検討をした結果をご報告します。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 完成したマトリクス表について、特徴的な状況を把握して説明します。 <p>〈例〉 自動車メーカー別の「ADAS」技術のタイプ別にマトリクス表 高度な ADAS 技術は、AI 技術によるもので、組織的にどの程度リソースをかけて開発できているのかなどの特許数や発明者数などで把握した上で、まとめた表です。</p> <table border="1" data-bbox="520 1458 1331 1951"> <thead> <tr> <th></th> <th>簡単な ADAS</th> <th>高度な ADAS</th> <th>通信での (決済サ-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>トヨタ</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>ホンダ</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>日産</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>Renault</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr><td>マツダ</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>FORD</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>GM</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>BENZ</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr><td>AUDI</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr><td>VW</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr> <th>現代自動車 ステランテ BMW</th> <th>開発指標</th> <th>特許数 ※</th> <th>基準設定の理由・イメージ</th> </tr> <tr> <td></td> <td>●</td> <td>100件~ </td> <td>「本部」レベルの組織的な開発レベル</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>20件~</td> <td>「部」レベルの組織的な開発レベル</td> </tr> <tr> <td></td> <td>△</td> <td>1~19件</td> <td>「課」レベルの組織的な開発レベル</td> </tr> <tr> <td></td> <td>×</td> <td>0件</td> <td>開発していないレベル</td> </tr> </tbody> </table>		簡単な ADAS	高度な ADAS	通信での (決済サ-	トヨタ	●	●	●	ホンダ	●	●	●	日産	●	○	○	Renault	●	△	△	マツダ	●	○	○	FORD	●	○	○	GM	●	●	●	BENZ	●	△	△	AUDI	●	△	△	VW	●	△	△	現代自動車 ステランテ BMW	開発指標	特許数 ※	基準設定の理由・イメージ		●	100件~	「本部」レベルの組織的な開発レベル		○	20件~	「部」レベルの組織的な開発レベル		△	1~19件	「課」レベルの組織的な開発レベル		×	0件	開発していないレベル
	簡単な ADAS	高度な ADAS	通信での (決済サ-																																																														
トヨタ	●	●	●																																																														
ホンダ	●	●	●																																																														
日産	●	○	○																																																														
Renault	●	△	△																																																														
マツダ	●	○	○																																																														
FORD	●	○	○																																																														
GM	●	●	●																																																														
BENZ	●	△	△																																																														
AUDI	●	△	△																																																														
VW	●	△	△																																																														
現代自動車 ステランテ BMW	開発指標	特許数 ※	基準設定の理由・イメージ																																																														
	●	100件~	「本部」レベルの組織的な開発レベル																																																														
	○	20件~	「部」レベルの組織的な開発レベル																																																														
	△	1~19件	「課」レベルの組織的な開発レベル																																																														
	×	0件	開発していないレベル																																																														

⑦ 7.「レポート Quick 解析」の概要

<p>タスク</p>	<p>実施済みの Quick 解析の結果を使い、それらを戦略視点でまとめたパワーポイント資料を作成して、ご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	<div style="text-align: center;"> <p>OUTPUT</p> <pre> graph LR A[実施済み Quick 解析の結果] -- INPUT --> B[レポート Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[レポート資料 報告会] </pre> </div>
<p>報告内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>報告レポートの提供</p> <p>原則、実施済みの Quick 解析結果を束ねたレポートです。</p> <p>〈補足〉</p> <p>弊社は、特許情報の世界を調べてきた第 3 者の立場で、強み(S)、弱み(W)、脅威(T)、機会(O)の視点での弊社コメントを付け加えるさせていただいています。尚、御社の戦略アクションについてご提案するなどのコメントをする考えはございません。</p> <p>報告会の開催</p> <p>Quick 解析結果を束ねてまとめ上げた資料を作成して、プレゼンテーション形式で説明をします。</p> <p>〈報告会〉の(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>場所 ;オンラインミーティング形式</p> <p>参加者 ;お申込者+上司+メンバー、弊社担当者</p> <p>報告会時間 ;90分(プレゼンテーション 60分 + 質疑応答 30分)</p> <p>プレゼンテーション資料 ;50ページ~80ページ (程度)</p> 	

最後に

本書の説明で、Future サービスについてご理解いただけただけでしょうか？

ユニークなサービスなので、分かりにくい点が多くあると思います。
不明な点があれば、オンラインミーティングで補足説明をします。

お気軽にお問い合わせください。

————— お問い合わせ先 —————
アナリスリサーチ株式会社
〒102-0074
東京都千代田区九段南一丁目 5 番 6 号
松井紳造
sales@pat-analysis.com
—————

